

バリアフリーや人々の意識

皆さんは、外出をした際、車椅子のマークをつけた車を見たことがありますか？私の祖父は、私が産まれる前に、脳の病気で半身麻痺が残り、家の中では装具や杖を使い生活しています。外出する時は祖母が運転する車に車椅子を乗せ、祖父が移動する時は車椅子を利用します。私はそんな障害者の人でも健常者のように生活ができる世の中になるようにと思い、バリアフリーや人々の意識について考えてみました。

私は家族と夏休みに車椅子のまま乗り降りのできる福祉車両を借りて、祖父達と旅行にでかけました。高速道路のパーキングエリアで休憩をした時に、障害者用の駐車場に車を停めたのですが、車椅子を降ろす時に段差があり高さが合わない、ポールが立っていて車椅子が下ろせない。駐車場から障害者用のトイレへのスロープが長いなど、普段生活している中でなかなか気づかない問題点がいくつもありました。障害者の為に設けられている駐車場やスロープでも実際に障害者が利用してみると、不便に感じることもあるということに驚きました。このように実際に利用しないとわからないこともあり、完璧のように見えるバリアフリーでも、欠点があることに気付きました。バリアフリーとは、高齢者や障害のある人などが社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去（フリー）することです。そのため、いくら駐車場を作っても車椅子を出し入れするスペースがなかったら意味ないし、駐車場からトイレの距離が長かったら、それは車椅子に乗っている人にも、押している人にも負担になります。私は、今回の旅行で、バリアフリーに欠点があることを知りました。多くの方は、知らない、関係ない、または興味がないかもしれません。ただバリアフリーに焦点を合わせると、「本当にそれでいいの？」と言いたくなるような設備が多々ありました。

次に、実際にバリアフリーが完璧になったときの人々（健常者）について考えてみました。私はバリアフリーが完璧になったら、今以上に思いやりのない行動が増えると思います。その理由は二つあります。一つ目は、現在、実際に思いやりに欠けた行動が見られるからです。皆さんは、車椅子用の駐車場に健常者の車が停まっているのを見たことがありますか？私は今回の外出でそのような車を沢山見ました。ただでさえ車椅子の出し入れが難しく、目的の場所まで遠ければ遠いほど負担になる障害者なのに、専用の駐車場が空いてなかったら、どんな気持ちになるのでしょうか。あと、私は駅前で障害者用のトイレ（多機能トイレ）に

健常者の女性の方が入っていたのを見つけました。その時の女性用トイレは混んでいました。もちろん多機能トイレは「誰でも利用できます」と表記されている所があります。「障害者の人達が待たなければ多機能トイレを使ってもいい」という考えの人もあるかもしれませんが。実際に私もそのような考えでした。しかし、現在のこの環境では、「多機能トイレ使う際に待ったことがある障害者が九割」だといいます。それを聞いて私は驚きました。障害者の方が待っているのを見たことが無いからです。もちろん九割の人全員が健常者のせいで待っていないとはならなかったという訳ではありません。ただ健常者の方が入っていたから、本当に必要としている人が入れなかったということも少なからずあると思います。また、もう一つの課題として、多機能トイレの数が足りないのです。これもバリアフリーの欠点です。そして今以上に思いやりのない行動が増えると思う二つ目の理由で、便利になるからです。障害者の方に便利になるといったら、当然、健常者の方にも便利になります。便利になるということを踏まえた上で、今の状況を重ねると、思いやりのない行動がかなり増えると思います。このように、どれだけバリアフリーが完璧（便利）になっても健常者の意識がかわらなければ、障害者の負担は変わらないということです。

旅行中、悪い事ばかりではなく、ホテルや外出先で、気遣ってくださるスタッフの方や、車椅子の乗り降りの時に嫌な顔をせずに待っていてくれる運転手さんなど、思いやりのある行動をみると温かい気持ちになりました。全ての健常者の方がそうなればいいのになと思ってしまいました。しかし、一部の健常者の方は障害者に人に視線を向けます。他の人と違うからなのではないでしょうか？ただ、私たち健常者が普通に生きているのと同じで、障害者の方も普通に生きています。人によって「普通」は違います。障害者の方々の「人権」を大切にし、障害者の方々に寄り添っていきたくないと私は思います。